

沖縄県国頭村辺戸御嶽ウバーレ第1 ドリーネ出土の中世人骨

松下孝幸*・松下真実**・水野文月***

【キーワード】：沖縄県、中世（グスク）人骨、女性骨、新生児骨、短頭型、歯槽性突顎

はじめに

沖縄県国頭郡国頭村字宜名真^{ぎなま} 1282 の1番地に所在する辺戸御嶽ウバーレ第1 ドリーネ^{へどうたき}から人骨が出土した。人骨が発見されたのは2002（平成14）年9月のことで、このドリーネに池（鍋池）を作る際に人骨が出土したという。人骨の遺存状態は比較的良好で、沖縄本島北部で古人骨が発見されることは珍しく、本人骨は沖縄人の形質変化を研究する資料としてはきわめて貴重である。



調査区全景

2022（令和4）年に大石林山を訪れ、人骨が

出土した場所に、人骨を発見された方に案内してもらったが、すでに池の一部になっており、現場に近づくことはできなかった。

本人骨には中世人的な特徴がみられたので、中世人骨と推測している。沖縄ではおおよそ12世紀後半から15,6世紀までをグスク時代と呼称しており、この時期は日本本土の平安時代末から室町時代、安土桃山時代に相当する。沖縄本島の中世頃の人骨としては、北谷町の後兼久原^{くしかにくぼる}（松下、2003a）、北谷城^{ちやたんぐすく}（松下・他、2010）、伊礼原B遺跡^{いれいぼる}（松下・他、1989）、伊礼原D遺跡（松下・他、2017）（7世紀～8世紀）、南城市の大里城^{おおさとぐすく}（松下、2001a）、宜野湾市のテラガマ洞穴（松下、2006）の各遺跡から出土した人骨ぐらいしがなく、この時期の例数はかなり少ないことから、中世人の特徴は明確にはなっていない。

2002年に、辺戸御嶽ウバーレ第1 ドリーネから取り上げられていた人骨を解剖学的に精査し、人類学的観察や計測をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資料

取り上げられていた人骨を解剖学的に精査したところ2体分の人骨であることが判明した。1体は成人女性骨で、もう1体は新生児骨である。成人骨を1号人骨(HDU-1)、新生児骨を2号人骨(HDU-2)とした。人骨の出土状況や骨質および顕著な歯槽性突顎が認められることから、この2体の人骨は中世（グスク時代）頃の人骨と推測される。

計測方法は、Martin-Saller（1957）によったが、脛骨の横径はオリビエの方法（前縁がノギスの針の中央に位置するようにして計測）で計測した。



図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the 1ht doline of the Hedoutaki ubala, Kunigami Village, Okinawa Prefecture)

表1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成人			新生児	合計
男性	女性	不明		
0	1	0	1	2

表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考
1号人骨 (HDU-1)	女性	熟年	出土状況は不明
2号人骨 (HDU-2)	—	新生児	

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書 (松下、1996b) を参照されたい。

所見

I 人骨の形質

各骨の残存部は図2に示すとおりである。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

1号人骨 (HDU-01) (女性、熟年)

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

ほぼすべての骨が残存しているが、前頭骨の眉間部分を欠損している。骨壁は厚く、堅牢である。外後頭隆起の発達はよくない。また、乳様突起は小さい。左側の外耳道の観察ができたが、骨腫は存在しない。縫合は、三主縫合のうち冠状縫合と矢状縫合は内外両板とも癒合閉鎖している。ラムダ縫合も癒合が進んでいるが、内外両板ともまだ縫合が明瞭な部分も認められる。

脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が (176) mm、頭蓋最大幅は 142mm で、頭蓋長幅示数は (81.82) となり、頭型は短頭型 (brachykran) に属している。バジオン・ブレグマ高は計測できない。

(2) 顔面頭蓋

頬骨、上顎骨、下顎骨が残存しているが、部分的に欠損しており、顔面骨を接合できないので、顔

面の計測はできない。前頭部は膨隆している。鼻根部を欠失しているため、鼻根部の様態は不明である。上顎骨歯槽突起の観察ができた。歯槽性突顎の傾向が著しい。

下顎骨は下顎体の一部を欠損しているが、保存状態は良好である。咬筋粗面の発達も良好で、下顎角は外反している。下顎枝は幅広く、下顎切痕も幅が広く、浅い。

2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

● ⑧ ⑦ 6 5 ④ ③ ② 1		① 2 ③ ④ ⑤ 6 7 ● ⑧
● ⑧ 7 ⑥ 5 4 3 2 /		1 2 ③ 4 5 6 ⑦ ● ⑧

〔●: 歯槽閉鎖 ○: 歯槽開存 /: 不明 (破損)、番号は歯種〕

〔1: 中切歯、2: 側切歯、3: 犬歯、4: 第一小白歯、5: 第二小白歯、6: 第一大臼歯、7: 第二大臼歯、8: 第三大臼歯〕

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

肩甲骨 (左)、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

① 鎖骨

両側が残存していた。鎖骨は細い。

② 上腕骨

両側が残存していたが、両側とも近位部を欠損している。骨体はあまり大きいものではない。左側の三角筋粗面の観察ができたが、粗面の発達はきわめて良好である。

計測値は、中央最大径が 22mm (左)、中央最小径は 16mm (左) で、骨体断面示数は 72.73 (左) となり、左側骨体は扁平である。骨体最小周は 59mm (右)、中央周は 65mm (左) で、骨体は大きい。

③ 橈骨

両側の骨体が残存していた。骨体は細いが、骨間縁は骨体近位 1/3 あたりで鋭く突出している。

④ 尺骨

尺骨も両側の骨体が残存していた。骨体は細いが、骨間縁は鋭く突出している。

(2) 下肢骨

寛骨、仙骨、大腿骨、脛骨および腓骨が残存していた。

① 寛骨

右左右の腸骨が残存している。左側の大坐骨切痕の観察ができた。大坐骨切痕の角度は大きく、耳状面前溝が認められる。

② 大腿骨

両側が残存している。骨体は女性としてはやや大きい。粗線は幅広く発達も良好で、粗線の両側が凹んでいるので、粗線が柱状に突出する形態を示している。骨体上部は扁平である。

計測値は、骨体中央矢状径が 27mm (右)、26mm (左)、横径は 24mm (右)、26mm (左) で、骨体中央断面示数は 112.50 (右)、100.00 (左) となり、右側の方が左側よりも粗線や骨体両側面の後方への発達は良好である。骨体中央周は 81mm (右)、82mm (左) で、骨体は女性としては太い。また、骨体上横径は 30mm (右)、30mm (左)、骨体上矢状径は 21mm (右)、22mm (左) で、

上骨体断面示数は 70.00 (右)、73.33 (左) となり、骨体上部はかなり扁平である。

③脛骨

両側の骨体が残存しているが、左側は骨体の一部にすぎない。骨体は女性としては太く、前縁は S 字状のカーブを描いており、やや鈍縁で、骨間縁の発達も悪い。ヒラメ筋線の様態は不明であるが、右側の後面中央には 1 本の稜線 (垂線) が認められる。右側骨体の断面形はヘリチカの II 型 (内側を底辺として骨間縁を頂点とする鈍角二等辺三角形) を呈している。

計測値は、中央最大径が 25mm (右)、中央横径は 19mm (右) で、中央断面示数は 76.00 (右) となり、骨体には扁平性は認められない。骨体周は 72mm (右)、最小周は 65mm (右) で、女性としては骨体は大きい。

④腓骨

両側の骨体が残存していた。骨体は細いが扁平である。稜の発達は良好で、溝も深い。

4. 性別・年齢

性別は、前頭鱗が膨隆しており、寛骨の大坐骨切痕の角度が大きいことから、女性と推定した。年齢は、三主縫合のうち冠状縫合と矢状縫合が内外両板とも癒合閉鎖し、ラムダ縫合も癒合が進んでいることから、熟年と推測した。

2号人骨 (HDU-02) (新生児)

残存していたのは、頭蓋の一部と四肢骨のみである。頭蓋は右側の岩様部が、四肢骨は両側の上腕骨、右側の尺骨、両側の大腿骨、右側脛骨である。四肢骨の大きさから、新生児骨と推測した。

II ミトコンドリアゲノム分析

1. 分析方法

古人骨を物理的に粉末化した後、EDTA 溶液にて脱灰し、DNA を抽出した。この脱灰 DNA 溶液からシリカ法にて DNA を精製した。本精製 DNA をもちい、次世代シーケンスのためのライブラリを作成した。古人骨試料から抽出・精製された DNA は極めて微量であるため、次世代シーケンスに必要な DNA 量を確保するためにライブラリの増幅をおこなった。古人骨 DNA の保存が極めて良好な試料は例外であり、古人骨試料から抽出・精製された DNA は極めて微量であることに加えて、その DNA 溶液に含まれる“真に古人骨由来の DNA”の割合は、多くの場合 0.1% 以下である。そこで、目的とする DNA 領域 (本分析においてはゲノム全領域) を選択的に濃縮する実験手法であるターゲットエンリッチメントをおこなった (Kihara, Mizuno et al, 2013)。ターゲットエンリッチメントにて濃縮したライブラリを次世代シーケンサで分析した。得られた塩基配列の品質評価ならびにミトコンドリア DNA 全領域 (ミトコンドリアゲノム全塩基配列) の構築をおこない (Ishiya and Ueda 1017)、当該古人骨のミトコンドリア・ハプログループを決定した。

2. 分析結果

ヒトミトコンドリア DNA 参照配列は 16,569 塩基からなる。1号人骨 (HDU-1)、2号人骨 (HDU-2)、両個体ともに「カバー率 100%」、すなわちミトコンドリアゲノム完全長の塩基配列を得ることに成

功した。また、平均デプスは1号人骨は78、2号人骨は304であった。デプス（深度）は、独立したDNA断片によって同じ塩基を何回読み取っているかを示す値で、得られた分析結果の信頼度の指標の一つである。

3. 所見

ミトコンドリアDNAの塩基配列は個人間で高い多様性（塩基配列の違い）を示し、塩基配列が類似した配列グループをハプログループとして定義している。母親から子へと受け継がれるミトコンドリアDNAのハプログループを決定することで、母系の系統関係（由来）を推定することが可能である。

上述のミトコンドリアゲノム分析結果から、1号人骨（HDU-1）、2号人骨（HDU-2）のハプログループは両個体とも「M7a1b1」と決定された。さらにM7a1b1という同じハプログループに属するだけでなく、全塩基配列を比較してみると両個体は共通した塩基置換を保有しており、近い母系関係が想定された。ハプログループM7a系統は、縄文人で高頻度で観察される系統の1つであり、現代日本列島人においては約7.7%観察されている（Mizuno et al,2021）。

考 察

成人女性骨を沖縄県内出土人骨と比較して、その特徴を検討してみた。比較資料として、摩文仁ハンタ原縄文人骨（松下真実、2009、松下真実・他、2011）、具志川島縄文～弥生人骨（松下・他、1993）、真志喜安座真原縄文～弥生人骨（松下・他、1992）、木綿原弥生人骨（松下、2003c）、伊礼原D人骨（7世紀～8世紀）（松下・他、2017）、喜友名前原近世人骨（松下、2007b）、勢頭原近世人骨（松下、2007a）、クジチ墓近世人骨（松下・他、1988）、城間古墓近世人骨（松下・他、1990）を用いた。

1. 頭蓋

表4は、女性脳頭蓋の計測値の比較表である。頭型を検討するために、沖縄県内での各時代人骨と比較してみた。縄文人としては、摩文仁ハンタ原、縄文時代から弥生時代の例として、具志川島と真志喜安座間原を、弥生人の例として木綿原、近世人の例として、喜友名前原、勢頭原、クジチ墓の各遺跡から出土した人骨を用いた。辺戸御嶽1号人骨の頭蓋長幅示数は（81.82）となり、頭型は短頭型である。表4で、頭蓋長幅示数をみても、木綿原の88.28が最も大きく、次いで真志喜安座真原の86.78、具志川島の84.83、伊礼原Dの84.34、摩文仁ハンタ原の82.61と続き、縄文人も弥生人も短頭型であるが、7世紀～8世紀に属する伊礼原Dも短頭型である。本例はわずか1例ではあるが、本例も短頭型を示しており、沖縄では、少なくとも中世までは短頭型を維持しているものが存在する。近世になると頭蓋長幅示数は中頭型を示すようになるが、長頭型を示す示数値は示していない。日本本土では、古墳時代から徐々に長頭化し、中世では頭型が長頭型になることが判明している。沖縄では中世になっても長頭型にならないか、長頭化の傾向が弱いのかかもしれない。

2. 四肢骨

①上腕骨

表5は、女性上腕骨の計測値の比較表である。辺戸御嶽1号人骨の中央周は65mmで、表5では最大値を示し、上腕骨は太い。骨体断面示数は72.73となり、喜友名前原の76.39よりは小さく、

骨体は扁平であるが、真志喜安座間原の 68.34、クジチの 69.20 よりは大きく、その他の伊礼原 D の 70.00、摩文仁ハンタ原の 71.82、木綿原の 73.05、勢頭原の 73.62、城間の 73.58 と大差ない。女性上腕骨は時代を通じておおむね扁平傾向がみられる。

②大腿骨

表 6 は、女性大腿骨の計測値の比較表である。辺戸御嶽 1 号人骨の骨体中央周は 81mm で、表 6 では最大値となり、骨体は大きい。骨体中央断面示数は 112.50 で、喜友名前原の 113.64 に次いで大きく、骨体両側面は後方へ伸展している。上骨体断面示数は 70.00 で、表 6 では最小値となり、骨体上部の扁平性はかなり強い。

③脛骨

表 7 は、女性脛骨の計測値比較表である。辺戸御嶽 1 号人骨の骨体周は 72mm で、表 7 では最大値となるが、城間の 71.71mm に近い。最小周は 65mm で、クジチの 65.33mm、城間の 65.40mm に近く、骨体は大きい。中央断面示数は 76.00 となり、勢頭原の 79.02、摩文仁ハンタ原の 78.60 よりは小さく、真志喜安座間原の 76.33、木綿原の 76.91 と大差なく、骨体に扁平性はみられない。女性脛骨は、縄文時代から扁平性が認められないが、この傾向は男性脛骨についても同じである。

要 約

2002 (平成 14) 年 9 月、沖縄県国頭郡国頭村字宜名真 1282 の 1 番地に所在する辺戸御嶽ウバーレ第 1 ドリーネから人骨が出土した。人骨の遺存状態は比較的良好で、沖縄人の形質変化を研究するための貴重な資料となるものである。取り上げられていた人骨を解剖学的に精査し、人類学的観察や計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 取り上げられていた人骨を精査したところ、熟年の女性骨と新生児骨の 2 体分の人骨であった。この 2 体の検出時の位置関係や埋葬姿勢は不明である。
2. 成人の上顎骨に歯槽性突顎の特徴が認められたことから、本人骨を中世に属する人骨と推測した。
3. 頭蓋長幅示数は (81.82) となり、頭型は短頭型 (brachykran) である。顔面の特徴は不明であるが、上顎骨歯槽突起には強い歯槽性突顎の傾向が認められた。
4. 上腕骨は、三角筋粗面の発達はきわめて良好で、中央周は 65mm (左) もあり、骨体は大きく、骨体断面示数は 72.73 (左) となり、骨体は扁平である。
5. 大腿骨は、骨体中央周が 81mm (右)、82mm (左) で、骨体は女性としては太い。骨体中央断面示数は 112.50 (右)、100.00 (左) となり、右側の方が左側よりも粗線や骨体両側面の後方への発達は良好である。上骨体断面示数は 70.00 (右)、73.33 (左) となり、骨体上部はかなり扁平である。
6. 脛骨は、骨体周は 72mm (右)、最小周は 65mm (右) で、女性としては骨体は太い。中央断面示数は 76.00 (右) となり、骨体には扁平性は認められない。
7. 2002 年に辺戸御嶽ウバーレ第 1 ドリーネから出土した人骨は熟年女性骨と新生児骨であった。成人女性骨に歯槽性突顎が認められたことから、この 2 体は中世に属する人骨と推測される。成人女性の頭型は短頭型であった。顔面頭蓋は遺存状態が悪く、鼻根部の観察ができなかったため、

鼻根部が扁平であったかはわからない。しかし、上顎骨歯槽突起には強い歯槽性突顎の傾向がみられた。上腕骨、大腿骨、脛骨はともに女性としては太く、上腕骨には扁平性が、大腿骨では柱状性や骨体上部に強い扁平性がみられたが、脛骨は扁平ではなかった。沖縄では男女とも縄文時代から近世に至るまで脛骨に扁平性がみられないが、これは下腿の筋、とくに距腿関節（足首）を底屈する（踵をあげる）筋を酷使する労働形態や日常動作が生じない環境にあるものと推測される。

8. ミトコンドリアゲノム分析をおこなったところ、1号人骨と2号人骨のハプログループはともにM7a1b1であった。
9. 沖縄でも、中世人骨のなかに、頭型が長頭型で、鼻根部が扁平で、歯槽性突顎が認められる人骨が存在する。これを日本本土からの移住者とする研究者がいるが、「長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎」という特徴は、中世人の時代的特徴であって、地域性を示す指標ではない。日本本土では弥生時代以降、大陸からのヒトの渡来や生活様式の変化によって、顔かたちに変化が生じてきた。古墳時代後期頃からこうした中世人の特徴が見え始め、中世になるとその特徴が顕著となる。その後近世になると、中性的特徴が弱まり、階級差による形質の特徴が顕著になる。この「長頭性、鼻根部の扁平性、歯槽性突顎」が中世における日本本土だけの特徴ならば、それは中世における地域差になり得る。沖縄では中世に、日本本土のような中世的形質を獲得していなかったら、中世人的特徴をもつ人物は日本本土からの渡来者と言えるが、そのためには、沖縄では中世になっても日本本土と同じ中世化が起きなかったことを証明しなくてはならぬ。

筆者（松下孝幸）は、「鼻根部の扁平性と歯槽性突顎」は咀嚼能力の弱体化が引き起こしたと考えている。もし、沖縄で中世化がおきなかったとすれば、咀嚼能力を弱めるような食をめぐる環境（咀嚼環境）が変化しなかったことになる。これを検証するためにはまだ資料（中世前後の人骨）が圧倒的に不足している。

本例は、中世に沖縄への本土からの渡来があったことを検証する上で参考になる所見がある。それは頭型である。沖縄では、縄文人も弥生人も短頭型である。7世紀～8世紀の伊礼原Dも短頭型で、本例（中世人と推測）も短頭型であった。在地系沖縄人は、時代変化をしないで短頭型を維持しているのかもしれない。そうであれば、この短頭性が在地系沖縄在人の指標となり得ることになる。本例は短頭型で歯槽性突顎が認められる。これは在地系沖縄人が中世化した姿（状態）であることを物語っているのかもしれない。だとすればこの人物は日本本土からの渡来者ではなく、在地系沖縄人ということになる。在地系沖縄人も中世になると、上顎骨歯槽突起が中世人の特徴である歯槽性突顎を示すことを示唆していることになる。

筆者らは、日本本土を含む周辺地域から沖縄へ渡来してきた人々がいたことを否定するものではない。むしろその可能性を想定しながら研究をおこなっている。日本本土からの渡来人と在地系沖縄人とをミトコンドリアゲノム解析では区別することはできないので、当時の社会構造や物流などの経済状況を参考にしながら、人骨形質を詳細に分析していくことで、今後もヒトの移動を検討していきたい。

《参考文献》

1. Martin-Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fisher Verlag, Stuttgart: 429-597.
2. 松下真実、2009: 沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第4号(沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡発掘調査報告(1)): 42-57.
3. 松下真実・他、2011: 沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨(2)土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第6号: 28-49.
4. 松下孝幸・他 1988: 沖縄県宜野座村クジチ墓出土の近世人骨。宜野座村乃文化財第6集(クジチ墓・クジチ原遺跡発掘調査報告書): 107-140.
5. 松下孝幸・他、1989: 沖縄県北谷町伊礼原B遺跡出土の人骨。伊礼原B遺跡-旧メイモスカラー地区雨水排水施設工事に係る発掘調査- (北谷町文化財調査報告書第8集): 39-48.
6. 松下孝幸・他、1990: 沖縄県浦添市城間古墓群出土の近世人骨。城間古墓群-牧港補給地区開発工事に伴う緊急発掘調査-: 75-112.
7. 松下孝幸・他、1992: 沖縄県宜野湾市真志喜安座間原遺跡出土の縄文・弥生時代人骨。謝名II(真志喜土地区画整理事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書[1])(宜野湾市文化財調査報告書第15集): 第5章: 1-99.
8. 松下孝幸、1993a: 沖縄県石垣市石垣貝塚出土の人骨。石垣貝塚(石垣市文化財調査報告書第17): 31-50.
9. 松下孝幸、1993b: 沖縄県石垣市平川貝塚出土の人骨。平川貝塚(石垣市文化財調査報告書第18号): 87-91.
10. 松下孝幸・他、1993: 沖縄県具志川島遺跡群出土の古人骨。具志川島遺跡群(伊是名村文化財調査報告書第9集): 215-244.
11. 松下孝幸、1996a: 沖縄県北谷町上勢頭古墓群出土の近世人骨。上勢頭古墓群(北谷町文化財調査報告書第16集): 105-115.
12. 松下孝幸、1996b: 土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集): 24-50.
13. 松下孝幸、2001a: 沖縄県大里村大里城出土のグスク時代人骨。大里城-都市公園計画に係わる緊急確認発掘調査報告書(2)-: 109-122.
14. 松下孝幸、2001b: 沖縄県北谷町山川原古墓群出土の近世・近代人骨。山川原古墓群(2)-瑞慶覧(11)倉庫建設に係る文化財発掘調査報告(北谷町文化財発掘調査報告書第20集): 239-273.
15. 松下孝幸、2003a: 沖縄県北谷町後兼久原遺跡出土のグスク時代人骨。後兼久原遺跡-庁舎建設に係る文化財発掘調査報告書- (北谷町文化財調査報告書第21集): 385-399.
16. 松下孝幸、2003b: 沖縄県北谷町大作原古墓群出土の人骨。大作原古墓群-嘉手納(12)・(13)送油管移設に係る文化財発掘調査報告- (北谷町文化財調査報告書第22集): 149-161.
17. 松下孝幸、2003c: 沖縄県読谷村木綿原遺跡出土の弥生時代人骨。南島考古、No.22: 67-108.(沖縄考古学会)
18. 松下孝幸、2006: 宜野湾市嘉和テラガマ洞穴遺跡出土の縄文・グスク時代人骨。嘉和テラガマ洞穴遺跡(宜野湾市文化財調査報告書第35集): 81-102.
19. 松下孝幸、2007a: 宜野湾市喜友名後原・勢頭原丘陵古墓群出土の近世人骨。喜友名後原・勢頭原丘陵古墓群喜友名前原第一古墓群(宜野湾市文化財調査報告書第40集): 55-72.
20. 松下孝幸、2007b: 宜野湾市喜友名前原第一古墓群出土の近世人骨。喜友名後原・勢頭原丘陵古墓群喜友名前原第一古墓群(宜野湾市文化財調査報告書第40集): 73-89.
21. 松下孝幸・他、2010: 沖縄県北谷町北谷城出土のグスク時代人骨。北谷城(北谷町文化財調査報告書第32集): 148-166.
22. 松下孝幸・他、2017: 沖縄県北谷町伊礼原D遺跡出土の貝塚時代後期人骨。伊礼原D遺跡(北谷町文化財調査報告書第41集): 377-397.

《DNA分析の参考文献》

- Kihara M., Mizuno F., Sawafuji R., Wnhg L., and Ueda S.(2013) Emulsion PCR-coupled target enrichment: An effective fishing method for high-throughput sequencing of poorly preserved ancient DNA. Gene, 528: 347-351. doi.10.1016/j.gene.2013.07.040.

Ishiya K. and Ueda S. (2017) MitoSuite : a graphical tool for human mitochondrial genome profiling in massive parallel sequencing. PeerJ, 5 : e3406. doi.org/10.7717/peerJ.3406.

Mizuno,F.,Gojobori,J.,Kumagai,M.,Baba,H.,Taniguchi,Y.,Kondo,O.,Matsushita,M.,Matsushita T.,Mstsuda,F.,Higasa,K., Hayashi,M.,Wang,L.,Kurosaki,K. and Ueda,S.(2021). Population dynamics in the Japanese Archipelago since the Pleistocene revealed by the complete mitochondrial genome sequences. Scientific reports, 11(1), 12018, doi.org/10.1038/s41598-021-91357-2

* Takayuki MATSUSHITA、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、NPO法人人類学研究機構

** Masami MATSUSHITA、特定非営利活動法人・人類学研究機構

*** Fuzuki MIZUNO、東邦大学医学部法医学講座

表4 脳頭蓋計測値 (女性、mm) (Table 4. Comparison of female calvarial measurements and indices)

	辺戸御嶽		摩文仁ハタ原		具志川島		真志喜安座間原		木綿原		伊礼原D		喜友名前原		勢頭原		クジチ	
	グスク人	沖縄県	沖縄県	糸満市	糸満市	伊是名村	糸満市	宜野湾市	読谷村	読谷村	北谷町	北谷町	宜野湾市	宜野湾市	近世人	近世人	近世人	近世人
	HDU-1	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n
1. 頭蓋最大長	(176)	6	173.00	3	167.00	15	165.87	2	166.50	2	166.50	166	3	178.00	8	172.25	2	169.00
8. 頭蓋最大幅	144	3	141.00	3	141.67	14	143.86	2	147.00	2	147.00	140	3	137.33	8	135.50	3	134.00
17. バジオン・ブレグマ高	-	1	132	2	134.50	5	132.00	-	-	-	-	-	2	127.50	6	132.83	-	-
8/1 頭蓋長幅示数	(81.82)	3	82.61	3	84.83	14	86.78	2	88.28	2	88.28	84.34	3	77.23	8	78.73	2	78.96
17/1 頭蓋長高示数	-	1	79.04	2	81.77	5	78.94	-	-	-	-	-	2	71.96	6	77.31	-	-
17/8 頭蓋幅高示数	-	1	96.35	2	97.21	5	91.28	-	-	-	-	-	2	95.14	6	98.32	-	-
1+8+17/3 頭蓋モズルス	-	1	145.33	2	145.84	5	148.07	-	-	-	-	-	2	146.33	6	146.72	-	-
23. 頭蓋水平周	-	2	495.00	3	496.67	10	493.40	1	492	1	492	491	3	502.67	6	492.67	2	482.50
24. 横弧長	-	2	312.50	3	319.00	13	314.00	1	313	1	313	309	3	303.00	7	302.14	1	308
25. 正中矢状弧長	-	1	349	1	352	6	353.50	-	-	-	-	353	3	365.00	5	259.80	-	-

伊礼原D: 7世紀~8世紀(古墳時代末~奈良時代相当期)

表5 上腕骨計測値 (女性、右、mm) (Table 7. Comparison of measurements and indices of female right humeri)

	辺戸御嶽		摩文仁ハタ原		真志喜安座間原		木綿原		喜友名前原		勢頭原		クジチ		城間	
	中世人	沖縄県	沖縄県	糸満市	糸満市	伊是名村	糸満市	読谷村	読谷村	北谷町	北谷町	宜野湾市	宜野湾市	近世人	近世人	近世人
	HDU-1	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n
5. 中央最大径	22 (左)	20	11	19.09 (左)	15	20.53	3	21.00	2	19.00	5	18.80	4	20.25	13	20.00
6. 中央最小径	16 (左)	14	12	13.64 (左)	15	14.00	3	15.33	2	14.50	5	13.80	4	14.00	13	14.69
7. 骨体最小周	- (左)	54	13	50.28 (左)	14	54.50	2	52.50	2	52.00	5	50.60	3	52.00	20	55.35
7(a). 中央周	65 (左)	59	14	54.82 (左)	15	57.73	3	59.67	2	55.00	5	54.80	4	57.50	13	57.69
6/5 骨体断面示数	72.73 (左)	70.00	15	71.82 (左)	15	68.34	3	73.05	2	76.39	5	73.62	4	69.20	13	73.58

伊礼原D: 7世紀~8世紀(古墳時代末~奈良時代相当)

表6 大腿骨(女性、右、mm) (Table 9. Comparison of measurements and indices female right femora)

	辺戸御嶽		伊礼原D		摩文仁ハタ原		真志喜安座間原		木綿原		喜友名前原		勢頭原		クジチ	
	HDU-1	1号土壙墓	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
6. 骨体中央矢状径	27	23	16	22.06	19	22.05	2	20.50	25	(左)	7	22.86	4	24.50	16	
7. 骨体中央横径	24	22	17	21.25	18	21.72	2	21.00	22	(左)	7	23.00	4	24.75	17	
8. 骨体中央周	81	71	18	68.38	18	68.72	1	67.00	75	(左)	7	72.71	4	77.75	15	
9. 骨体上横径	30	25	14	25.29	18	26.39	2	25.00	27	(左)	7	27.14	3	27.67	14	
10. 骨体上矢状径	21	20	15	18.79	18	19.61	2	19.50	22	(左)	7	20.71	3	22.67	14	
6/7 骨体中央断面示数	112.50	104.55	16	103.87	18	101.78	2	97.96	113.64	(左)	7	99.93	4	99.00	16	
10/9 上骨体断面示数	70.00	80.00	14	74.46	18	74.47	2	78.00	81.48	(左)	8	76.57	3	81.92	14	

伊礼原D: 7世紀~8世紀(古墳時代末~奈良時代相当)

表7 脛骨(女性、右、mm) (Table 10. Comparison of measurements and indices of female right tibiae)

	辺戸御嶽		伊礼原D		摩文仁ハタ原		真志喜安座間原		木綿原		喜友名前原		勢頭原		クジチ		城間	
	HDU-1	1号土壙墓	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
8. 中央最大径	25	23	19	22.68	13	23.15	3	21.67	22	(左)	4	22.50	7	25.29	16	26.13	(左)	
9. 中央横径	19	16	19	17.79	14	17.57	3	16.67	16	(左)	4	17.75	7	19.14	14	18.86	(左)	
10. 骨体周	72	64	19	64.74	13	64.92	3	61.33	61	(左)	4	63.50	7	70.29	14	71.71	(左)	
10b. 最小周	65	60	16	60.88	10	62.00	3	58.33	59	(左)	4	61.00	3	65.33	10	65.40	(左)	
9/8. 中央断面示数	76.00	69.57	19	78.60	13	76.33	3	76.91	72.73	(左)	4	79.02	7	75.98	14	71.13	(左)	

伊礼原D: 7世紀~8世紀(古墳時代末~奈良時代相当)

表8 脳頭蓋 (mm) (Calvaria)

		辺戸御嶽 HDU-01 女性
1.	頭蓋最大長	(176)
8.	頭蓋最大幅	144
17.	バジオン・プレグマ	129
8/1	頭蓋長幅示数	(81.82)
17/1	頭蓋長高示数	-
17/8	頭蓋幅高示数	-
1+8+17/3	頭蓋モズルス	-
5.	頭蓋底長	-
9.	最小前頭幅	104
10.	最大前頭幅	-
11.	両耳幅	(126)
12.	最大後頭幅	110
13.	乳突幅	-
7.	大後頭孔長	-
16.	大後頭孔幅	-
16/7	大後頭示数	-
23.	頭蓋水平周	-
24.	横弧長	-
25.	正中矢状弧長	-
26.	正中矢状前頭弧長	-
27.	正中矢状頭頂弧長	119
28.	正中矢状後頭弧長	112
29.	正中矢状前頭弦長	-
30.	正中矢状頭頂弦長	106
31.	正中矢状後頭弦長	105
29/26	矢状前頭示数	-
30/27	矢状頭頂示数	89.08
31/28	矢状後頭示数	93.75

() : 推定値

表9 顔面頭蓋 (mm、度) (Facial skeleton)

		辺戸御嶽 HDU-01 女性
40.	顔長	-
41.	側顔長	-
42.	下顔長	-
43.	上顔幅	114
45.	頬骨弓幅	-
46.	中顔幅	-
47.	顔高	-
48.	上顔高	-
47/45	顔示数 (K)	-
48/45	上顔示数 (K)	-
47/46	顔示数(V)	-
48/46	上顔示数(V)	-
40+45+47/:	顔面モズルス	-
50.	前眼窩間幅	-
44.	両眼窩幅	-
50/44	眼窩間示数	-
51.	眼窩幅 (右)	-
	(左)	-
52.	眼窩高 (右)	-
	(左)	-
52/51	眼窩示数(右)	-
	(左)	-
54.	鼻幅	-
55.	鼻高	-
54/55	鼻示数	-
55 (1)	梨状口高	-
56.	鼻骨長	-
57.	鼻骨最小幅	-
57(1).	鼻骨最大幅	-
60.	上顎齒槽長	-
61.	上顎齒槽幅	-
62.	口蓋長	-
63.	口蓋幅	-
64.	口蓋高	-
61/60	上顎齒槽示数	-
63/62	口蓋示数	-
64/63	口蓋高示数	-
72.	全側面角	-
73.	鼻側面角	-
74.	齒槽側面角	-

表10 下顎骨 (mm、度) (Mandibula)

		辺戸御嶽 HDU-01 女性
65	下顎関節突起幅	-
65(1).	下顎筋突起幅	-
66	下顎角幅	-
67	前下顎幅	-
68	下顎長	-
68(1).	下顎長	-
69	オトガイ高	-
69(1).	下顎体高 (右)	-
	(左)	29
69(2).	下顎体高 (右)	24
	(左)	(25)
70	枝高 (右)	-
	(左)	-
70(1).	前枝高 (右)	-
	(左)	-
70(2).	最小枝高 (右)	44
	(左)	47
70(3).	下顎切痕高 (右)	14
	(左)	-
71(1).	下顎切痕幅 (右)	44
	(左)	-
71	枝幅 (右)	34
	(左)	34
71a.	最小枝幅 (右)	34
	(左)	34
79	下顎枝角 (右)	-
	(左)	-
66/65	下顎幅示数	-
68/65	幅長示数	-
68(1)/65	幅長示数 (右)	-
69(2)/69	下顎高示数 (右)	-
	(左)	-
71/70	下顎枝示数 (右)	-
	(左)	-
71a/70(2)	下顎枝示数 (右)	77.27
	(左)	72.34
70(3)/71(1).	下顎切痕示数 (右)	-
	(左)	-

() : 推定値

表 11 鎖骨 (mm) (Clavicula)

		辺戸御嶽 HDU-01 女性	
1.	鎖骨最大長 (右)	-	
	(左)	-	
2 a	骨体彎曲高 (右)	-	
	(左)	-	
2(1)	肩峰端彎曲高 (右)	-	
	(左)	-	
4.	中央垂直径 (右)	8	
	(左)	8	
5.	中央矢状径 (右)	10	
	(左)	9	
6.	中央周 (右)	31	
	(左)	30	
6/1	長厚示数 (右)	-	
	(左)	-	
2 a/1	彎曲示数 (右)	-	
	(左)	-	
4/5	鎖骨断面示数 (右)	80.00	
	(左)	88.89	
2(1)/1	肩峰端彎曲示数 (右)	-	
	(左)	-	

表 12 上腕骨 (mm) (Humerus)

		辺戸御嶽 HDU-01 女性	
1.	上腕骨最大長 (右)	-	
	(左)	-	
2.	上腕骨全長 (右)	-	
	(左)	-	
3.	上端幅 (右)	-	
	(左)	-	
3(1).	横上径 (右)	-	
	(左)	-	
4.	下端幅 (右)	-	
	(左)	-	
5.	中央最大径 (右)	-	
	(左)	22	
6.	中央最小径 (右)	-	
	(左)	16	
7.	骨体最小周 (右)	59	
	(左)	-	
7 (a)	中央周 (右)	-	
	(左)	65	
8.	頭周 (右)	-	
	(左)	-	
9.	頭最大横径 (右)	-	
	(左)	-	
10.	頭最大矢状径 (右)	-	
	(左)	-	
11.	滑車幅 (右)	19	
	(左)	-	
12.	小頭幅 (右)	13	
	(左)	-	
12 (a)	滑車幅および小頭幅 (右)	37	
	(左)	-	
13.	滑車深 (右)	-	
	(左)	-	
14.	肘頭窩幅 (右)	25	
	(左)	-	
15.	肘頭窩深 (右)	13	
	(左)	-	
6/5	骨体断面示数 (右)	-	
	(左)	72.73	
7/1	長厚示数 (右)	-	
	(左)	-	

表 13 橈骨 (mm) (Radius)

		辺戸御嶽 HDU-01 女性	
1.	最大長 (右)	-	
	(左)	-	
1 b.	平行長 (右)	-	
	(左)	-	
2.	機能長 (右)	-	
	(左)	-	
3.	最小周 (右)	35	
	(左)	36	
4.	骨体横径 (右)	15	
	(左)	15	
4 a.	骨体中央横径 (右)	15	
	(左)	15	
4(1).	小頭横径 (右)	-	
	(左)	-	
4(2).	頸横径 (右)	-	
	(左)	11	
5.	骨体矢状径 (右)	10	
	(左)	9	
5 a.	骨体中央矢状径 (右)	10	
	(左)	9	
5(1).	小頭矢状径 (右)	-	
	(左)	-	
5(2).	頸矢状径 (右)	-	
	(左)	9	
5(3).	小頭周 (右)	-	
	(左)	-	
5(4).	頸周 (右)	-	
	(左)	38	
5(5).	骨体中央周 (右)	41	
	(左)	42	
5(6).	骨下端幅 (右)	-	
	(左)	-	
3/2	長厚示数 (右)	-	
	(左)	-	
5/4	骨体断面示数 (右)	66.67	
	(左)	60.00	
5 a / 4	中央断面示数 (右)	66.67	
	(左)	60.00	

表 14 尺骨 (mm) (Ulna)

		辺戸御嶽 HDU-01 女性	
1.	最大長 (右)	-	
	(左)	-	
2.	機能長 (右)	-	
	(左)	-	
2(1).	肘頭尺骨頭長 (右)	-	
	(左)	-	
3.	最小周 (右)	31	
	(左)	-	
6.	肘頭幅 (右)	-	
	(左)	-	
6(1).	上幅 (右)	-	
	(左)	-	
7.	肘頭深 (右)	-	
	(左)	23	
8.	肘頭高 (右)	-	
	(左)	19	
11.	尺骨矢状径 (右)	11	
	(左)	11	
12.	尺骨横径 (右)	15	
	(左)	14	
S	中央最小径 (右)	11	
	(左)	11	
L	中央最大径 (右)	15	
	(左)	14	
C	中央周 (右)	45	
	(左)	43	
3/2	長厚示数 (右)	-	
	(左)	-	
11/12	骨体断面示数 (右)	73.33	
	(左)	78.57	
S/L	中央断面示数 (右)	73.33	
	(左)	78.57	

表 15 大腿骨 (mm) (Femur)

		辺戸御嶽 HDU-01 女性	
1.	最大長 (右)	-	
	(左)	-	
2.	自然位全長 (右)	-	
	(左)	-	
3.	最大転子長 (右)	-	
	(左)	-	
4.	自然位転子長 (右)	-	
	(左)	-	
6.	骨体中央矢状径 (右)	27	
	(左)	26	
7.	骨体中央横径 (右)	24	
	(左)	26	
8.	骨体中央周 (右)	81	
	(左)	82	
9.	骨体上横径 (右)	30	
	(左)	30	
10.	骨体上矢状径 (右)	21	
	(左)	22	
15.	頸垂直径 (右)	-	
	(左)	-	
16.	頸矢状径 (右)	-	
	(左)	-	
17.	頸周 (右)	-	
	(左)	-	
18.	頭垂直径 (右)	-	
	(左)	-	
19.	頭横径 (右)	-	
	(左)	-	
20.	頭周 (右)	-	
	(左)	-	
21.	上顆幅 (右)	-	
	(左)	-	
8/2	長厚示数 (右)	-	
	(左)	-	
6/7	骨体中央断面示数 (右)	112.50	
	(左)	100.00	
10/9	上骨体断面示数 (右)	70.00	
	(左)	73.33	

表 16 脛骨 (mm) (Tibia)

		辺戸御嶽 HDU-01 女性	
		右	
1.	脛骨全長	-	
1 a.	脛骨最大長	-	
1 b.	脛骨長	-	
2.	顆距間距離	-	
3.	最大上端幅	-	
3 a.	上内関節面幅	-	
3 b.	上外関節面幅	-	
4 a.	上内関節面深	-	
4 b.	上外関節面深	-	
6.	最大下端幅	-	
7.	下端矢状径	-	
8.	中央最大径	25	
8 a.	栄養孔位最大径	29	
9.	中央横径	19	
9 a.	栄養孔位横径	22	
10.	骨体周	72	
10 a.	栄養孔位周	84	
10 b.	最小周	65	
9/8.	中央断面示数	76.00	
9 a / 8 a	栄養孔位断面示数	75.86	
10 b / 1	長厚示数	-	

表 17 膝蓋骨 (mm) (Patella)

		辺戸御嶽 HDU-01 女性	
1. 最大高	(右)	-	
	(左)	-	
2. 最大幅	(右)	43	
	(左)	-	
3. 最大厚	(右)	20	
	(左)	20	
4. 関節面高	(右)	-	
	(左)	-	
5. 内関節面幅	(右)	-	
	(左)	-	
6. 外関節面幅	(右)	27	
	(左)	25	
1/2 膝蓋骨高幅示数	(右)	-	
	(左)	-	

表 19 中央周の比

		辺戸御嶽 HDU-01 女性	
橈骨/尺骨	(右)	91.11	
	(左)	97.67	
橈骨/上腕骨	(右)	-	
	(左)	64.62	
鎖骨/上腕骨	(右)	-	
	(左)	46.15	
上腕骨/大腿骨	(右)	-	
	(左)	79.27	
上腕骨/脛骨	(右)	-	
	(左)	-	
脛骨/大腿骨	(右)	88.89	
	(左)	-	
腓骨/脛骨	(右)	59.72	
	(左)	-	

表 18 腓骨 (mm) (Fibula)

		辺戸御嶽 HDU-01 女性	
1. 最大長	(右)	-	
	(左)	-	
2. 中央最大径	(右)	15	
	(左)	13	
3. 中央最小径	(右)	11	
	(左)	10	
4. 中央周	(右)	43	
	(左)	39	
4 a. 最小周	(右)	40	
	(左)	-	
4 b. 頸横径	(右)	13	
	(左)	-	
4 c. 頸矢状径	(右)	12	
	(左)	-	
4(1) 上端幅	(右)	-	
	(左)	-	
4(1) 上端矢状幅	(右)	-	
	(左)	-	
4(2) 下端幅	(右)	-	
	(左)	-	
4(2) 下端矢状幅	(右)	-	
	(左)	-	
3/2 中央断面示数	(右)	73.33	
	(左)	76.92	
4 a / 長厚示数	(右)	-	
	(左)	-	

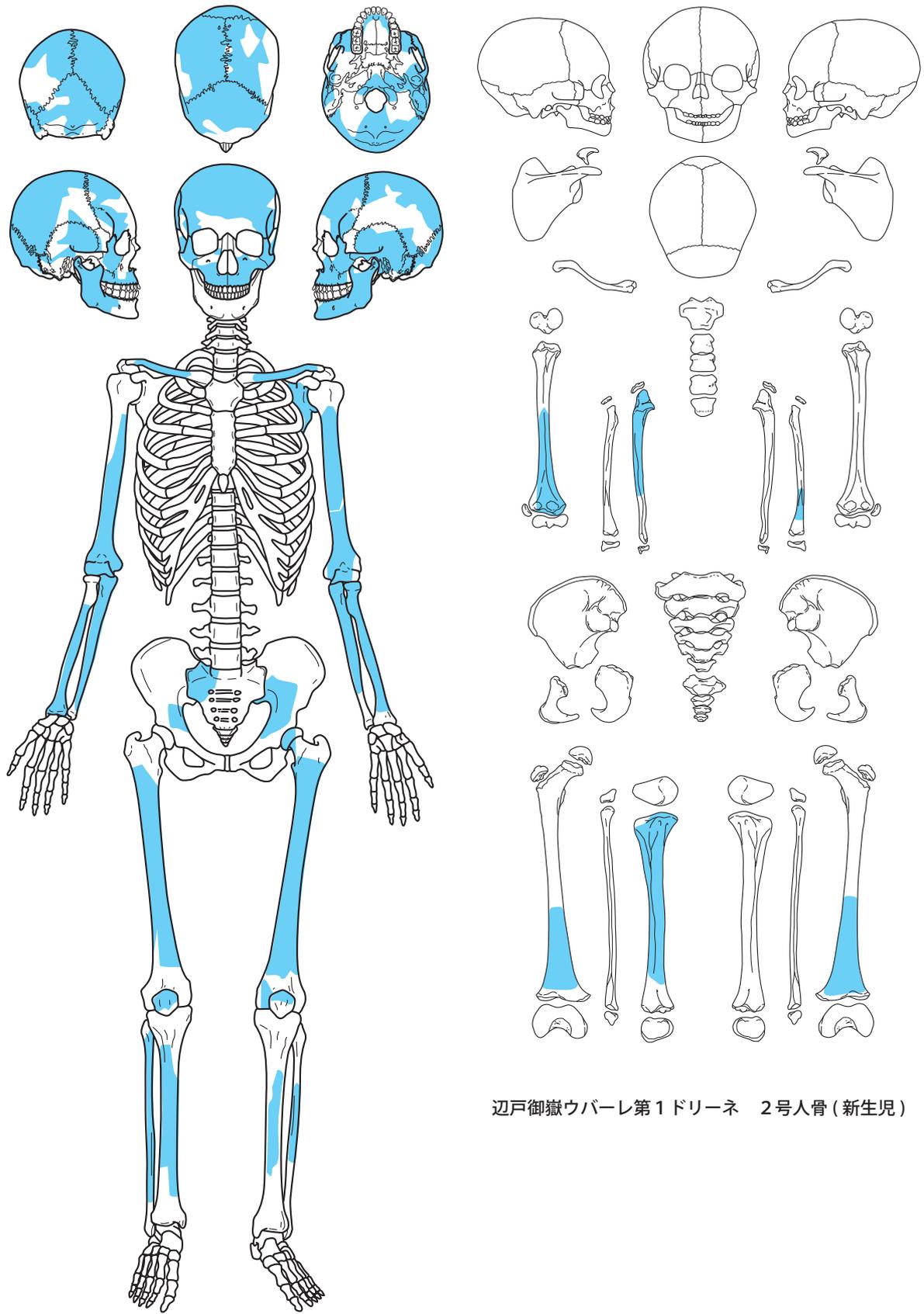
表 21 幼小児骨計測値 (infant)

		辺戸御嶽 HDU-02 新生児	
上腕骨		右	
1.	骨体最大長	-	
2.	骨体中央最小径	6	
3.	骨体中央最大径	5	
4.	骨体中央周	19	
5.	骨体上端幅	-	
6.	骨体下端幅	-	
7.	骨体最小周	19	
7/1	長厚示数	-	
2/3	骨体中央断面示数	83.33	
尺骨		右	
1.	骨体最大長	-	
2.	骨体中央最小径	4	
3.	骨体中央最大径	4	
4.	骨体中央周	5	
5.	骨体最小周	4	
5/1	長厚示数	-	
2/3	骨体中央断面示数	100.00	
大腿骨		左	
1.	骨体最大長	-	
2.	骨体中央横径	6	
3.	骨体中央矢状径	6	
4.	骨体中央周	20	
5.	骨体上横径	-	
6.	骨体上矢状径	-	
7.	骨体上端幅	-	
8.	骨体下端幅	-	
4/1	長厚示数	-	
3/2	骨体中央断面示数	100.00	
6/5	上骨体断面示数	-	
脛骨		右	
1.	骨体最大長	-	
2.	骨体中央横径	6	
3.	骨体中央矢状径	7	
4.	骨体中央周	26	
5.	骨体上端幅	-	
6.	骨体下端幅	-	
7.	骨体最小周	-	
7/1	長厚示数	-	
2/3	骨体中央断面示数	85.71	

表 20 形態小変異 (Non-metric crania variants)

	辺戸御嶽	
	HDU-01	
	女性	
	右	左
1. Medial palatine canal (内側口蓋管)	/	/
2. Pterygospinous foramen (翼棘孔)	/	/
3. Hypoglossal canal bridging (舌下神経管二分)	-	-
4. Clinoid bridging (床状突起間骨橋)	/	/
5. Condylar canal absent (顎間欠如)	/	/
6. Tympanic dehiscence, Foramen of Huschke (> 1mm) (フシュケ孔、鼓室骨裂孔)	/	/
7. Jugular foramen bridging	/	/
8. Precondylar tubercle	-	-
9. Supre-orbital foramen (incl.frontal foramen) (眼窩上孔)	/	/
10. Accessory intraorbital foramen (副眼窩下孔)	-	-
11. Zygo-facial foramen absent	/	-
12. Aural exostosis (外耳道骨腫)	/	-
13. Metopism (前頭縫合)	-	-
14. Os incae (インカ骨)	/	-
15. Ossicle at the lambda (ラムダ小骨)	-	/
16. Parietal notch bone (頭頂切痕骨)	/	/
17. Transverse zygomatic suture (>5mm)	/	-
18. Asterionic ossicle	/	/
19. Occipitomastoid ossicle	/	/
20. Epipteric ossicle	/	/
21. Frontotemporal articulation	/	/
22. Biasterionic suture (>10mm)	/	/
23. Mylohyoid bridging (顎舌骨筋神経溝骨橋)	-	-
24. Accessory mental foramen (副オトガイ孔)	/	-
25. Mandibular torus (下顎隆起)	/	-
26. 滑車上孔 (上腕骨)	-	-

〔 present :+, absent :-, unobservale :/ 〕



辺戸御嶽ウバーレ第1ドリーネ 2号人骨 (新生児)

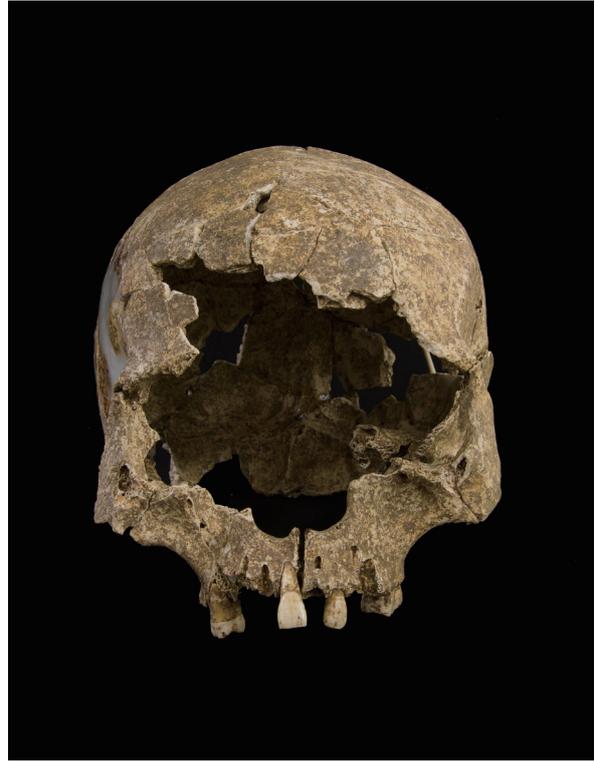
辺戸御嶽ウバーレ第1ドリーネ 1号人骨 (女性・熟年)

図2 人骨の残存図 (アミかけ部分)

(Fig.2 Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved.)



頭蓋上面 (Superior view of the skull)



頭蓋正面 (Frontal view of the skull)



頭蓋側面 (Lateral view of the skull)

辺戸御嶽ウバーレ第1ドリーネ 1号人骨 (HDU-1) (女性・熟年)

(The skeleton No.1(HDU-1) from the 1ht doline of the Hedoutaki ubala, mature female)



下肢骨 (Bones of the lower limb)



上肢骨 (Bones of the upper limb)

辺戸御嶽ウバーレ第1ドリローネ 1号人骨 (HDU-1) (女性・熟年)

(The skeleton No.1 (HDU-1) from the 1ht doline of the Hedoutaki ubala, mature female)



下顎骨 (The mandible)



骨盤 (The The Pelvis)

辺戸御嶽ウバーレ第1ドリーネ 1号人骨 (HDU-1) (女性・熟年)

(The skeleton No.1(HDU-1) from the 1ht doline of the Hedoutaki ubala, mature female)



右錐体・四肢骨 (The right pyramis・The limb bones)

辺戸御嶽ウバーレ第1ドリーネ 2号人骨 (HDU-2) (新生児)

(The skeleton No.2(HDU-2) from the 1ht doline of the Hedoutaki ubala, newborn)